

マラソンの魅力にとりつかれて40年 傘寿・盤寿の坂を越えようとする男たち



『きらこ』を読ませてもらっています。海外の国際マラソンにずいぶん出場しておられる新井田晃さんの文章がいつも載っていますね。この方にお会いしたいですね」と林昇志さん。そのことを新井田さんにお伝えすると「ああ、20年、いやもっと前、30年ぐらいになるのかな。どこかの大会で一緒に走り、そのあとビールを飲んだ方ですね。懐かしい」ということでお二人の再会が実現しました。



林 昇志さん
(1934年9月12日生まれ)

新井田晃さん
(1936年5月16日生まれ)

いやー、久しぶりですね。お元気でしたかー。
まだ、走っていらしたんですね。うれしいなあ。

20年、いやもっと前、30年ぐらいになりますかね。マラソンを終えたあといろいろお話ししたり、一杯やったりしたこと、よく覚えていますよー。
数十年ぶりに顔を合わせた二人のラ

ンナー、林昇志さん(79歳)と新井田晃さん(78歳)。

同年代のランナーがどんだん姿を消していく中で、ひたすら走り続けてきたお二人には共通の熱い思いがあるようです。

きらこ マラソンをお始めになったきっかけは…。

新井田 健康のためにとランニングを始めたのは40歳のときです。仕事があつたので、今のように時間はとれなかつたですが…。

定年退職してから、海外の国際マラソンに出るようになりました。

林 私も陸上を始めたのは40歳のときです。それも40歳の誕生日から。

私は千葉県立船橋高校を出ています。1年生のときは陸上部でしたが、2・3年生では柔道部でがんばって2段を取り、キャプテンも務めました。高校では特待生でした。購買部をつくり、そこでパンを売ったりしていました。

きらこ その頃から経営者としてのセンスがあたりだったんですね。

林 うちが貧乏でしたからね。戦後、開拓者として入植、1町5反歩の土地を開拓しました。小学校5年生から高校3年生までの間です。場所

は今、鷹の台カントリークラブのあるところ。そのとき、体を動かしたことで足、腰、腕力が鍛えられたと思っています。

船橋高校を卒業してからボクシングもやりました。証券会社に就職していた頃です。私の手相を見て「世界チャンピオンになれる」と言った古い師がいたのですが、証券会社が倒産してしまつたのでボクサーの夢も消えました。

きらこ それで西千葉にお寿司屋さんを開店なさつたんですね。

林 昭和28年5月、18歳のときです。寿司屋といつても間口2間、奥行き2間半の小さな店で、そこに祖父母、両親、兄弟の家族10人も暮らしていました。従業員に給料を払えなくて、自分で寿司を握るようになって。それが今の鮎・割烹「みどり」の前身で、その後のバー、喫茶店、ビヤホール、ケータリング、ホテル経営などのスタート地点でもあるわけです。

貧乏でしたから必死に働きました。

40歳で始めたマラソン

きらこ 仕事一筋で20年近くやってこられて、少しは時間ができたからとお始めになったのがマラソンで…。

林 健康のためにランニングを…というのではなく「やるからには日本一を目指す」というのが私の生き方。ビジネスと同じです。

スポーツが好きで、いろいろなやつてきましたが、マラソンは他のスポーツとは違います。

まず辛い。だが、走り終えたあとのさわやかな満足感…。これがすばらしい。

実際、辛く、苦しいですよ。きょう（8月1日）の気温は35度を超えていると思いますが、おとしのアクアラインマラソンも暑かったし、新潟のマラソンもフェーン現象の熱気で、体がどうにかなるのではと思ったほどです。でもこの「自分との闘い」が会社経営に共通するものがあるのです。

新井田 いやあ、昔、一緒に走って

マラソン談義に花を咲かせ、一杯やっただお仲間の林さんが、こんなにすばらしい経営者になられて、しかも相変わらず現役のランナーでいらつしやるなんて知りませんでした。

私がマラソンを始めたのは、まさに「健康のため」です。

虚弱体質で胃腸が弱く、胃下垂と胃潰瘍に悩まされた20代、30代でした。

中学校の英語教師として生徒指導に悩み、さらに学年主任など責任のある立場にあったことから上司から責任遂行を迫られるなど、精神的にも肉体的にも、とても辛い時期でした。

しかし、あるとき、自分に勝ち、外部からのプレッシャーを跳ねのけることができる最大の武器は「体力をつけること」と思い当たりました。

幸い、私の三人の子どもたちは運動会やマラソン大会で優勝するなど好成绩をあげていたので、家族ぐるみで走るようになり、10年間ぐらいいは全国各

地の大会にそろって参加していました。

私自身、走る喜びが盛り上がったのは50歳のときの佐倉朝日マラソンで、3時間20分33秒が出たときです。

林さんもおつしやっています。自分を痛めつけたあとの喜びと満足感が苦しければ苦しいほど、成就感が伴って喜びは大きいものです。

林 私は45歳のとき初めてフルマラソンに参加しましたが、後半はペースダウンして3時間10分。

これではいけないと、仕入れに行く市場までの往復を走り、さらに公園を走ったりして毎朝15キロを走るのを日課にしました。その結果、50歳のときに初めて3時間を切る「サブスリー」を達成することができました。

月間400キロ走れば、途中でペースタウンすることなくフルマラソンを走り切れると会得してからは、出場する多くの大会で「サブスリー」を達成するようになりました。

58歳のときには「河口湖日刊スポー

新井田晃さんの宝物

「年齢にとらわれず自らの責任と能力において自由に生き生きとした生活を送られています」と平成20年、内閣府から贈られた「エイジレス章」。

このときの講演を聞かせていただいたきらこは、すぐ「原稿料はお支払いできませんがぜひ、ご寄稿ください」とお願い、現在に至ります。

新井田 晃 殿

あなたは年齢にとらわれず自らの責任と能力におと自由で生き生きとした生活を送られています
これは内閣府が提唱するエイジレスライフの実践の模範であります
よってここにエイジレス章として
記念の楯を贈ります

平成二十年九月十五日

内閣府各課長 野田 聖子

▲エイジレス章



左の写真は2012年、イスラエル北部のティベリアマラソンで年代別（70歳代）優勝のトロフィー。イスラエル人の人情と誠意を感じさせる特別な想いが込められている印象に残る「心の賞」。ティベリア湖を図案化したものに、ヘブライ語の文字が入っています。

・にいだ あきら

福島県生まれ。東北大学教育学部卒。40歳で健康のためランニングを始め、定年退職後、世界の国際マラソンに挑戦。「きらこ」に「わたくし欲深人間です」を連載中。（今回は休みます）

椎間板ヘルニアで

アスリートへの道が…

林 椎間板ヘルニアを患い、手術して、身体障がい者になってしまいました。もう走れないと思って囲碁に熱中していた時期です。現在、日本棋院七

段です。

5年ほどたったとき、孫が一緒にマリンマラソンを走ろうと言うので2キロ走ってみた。そうしたら走れた。それで、また始めたのです。でも、脚は今も不自由です。

と、見せてくださった脚。
ヒザから下、左右の太さが
まったく違います。

足首も固まっていて、歩きづらい。でも走り出すと走れるんです。

結果の失敗に泣くなら

努力の過程で泣け

新井田 私もヒザの関節韌帯炎の持病がある上に、走っていると下半身全ての筋肉が痛んでくることが多く、精神力だけでは闘えないと思うことがあります。

これまでで一番過酷だったのは89キロの山岳コースを走った南アフリカの「コムラツズマラソン」でした。

私が挑戦したのは2005年です。

コムラツズとは同志、戦友という意味で、第一次世界大戦で亡くなった戦友を弔い、さらに士気を高めようと南アフリカの兵士たちが約90キロを走ったのが始まりです。標高差220メートル、アップ・ダウンの激しいコースを11時間40分で走りきったときは、まさに「死闘」という言葉がぴつたりだと思えました。

そして私の座右の銘で、生徒たちにも伝えてきた言葉を実感していました。「結果の失敗に泣くなら、努力の過程で泣け」です。

挑戦こそが我が人生

林 私は「継続は力なり」という言葉を実感しています。マラソンも会社経営も、相当の努力が必要ですし、前向きに取り組んでいかないと。

「挑戦こそが我が人生」というのも私の信念です。信念と情熱ですね。父からその生き方を学びました。父は60歳で作家としてデビューしま

した。92歳で亡くなりましたが、90歳ぐらいまでは描き続けていました。林清継という名前です。

朝日新聞の懸賞小説で三浦綾子さんの『氷点』が1位になりましたね。父はそのとき『崩壊』で次点でした。若いときの夢を貫いてプロレタリア文学の作家として10数冊の作品を残した父は私のよいお手本です。

だから仕事をしながら、100回以上もフルマラソンに出場できているのだと思います。ほとんど国内の大会ですが。新井田さんは海外を主に走っておられるんですね。

新井田 各国の文化、経済、教育、福祉にも興味があるので、マラソンとともにそういうことも見てまわっています。フルマラソンは100カ所を越えました。100回じゃなくて違う大会が100回以上です。

さらこ お二人は傘寿(80歳)、盤寿(81歳)を目前にしてお元気に走っているらしいので、6年後の東京オリ

はやししろうじ 林昇志さんのプロフィール



林昇志さんに掲載させていただきたいので……とプロフィールをお願いしていた。これで……とさし出されたA4の紙には小さな文字がぎっしり。
「わつ、他人の何倍もの人生ですね」と思わず口にしてしまった。毎朝走って、会社の仕事をし、さらにいろいろな団体や会の役員をこなしているらしいのだ。

現役職は

(株)グリーンタワー社主、千葉市トライアスロン協会会長、シドニー、アテネ、ペキン、ロンドンのオリンピックへ8人の選手を育てるマスターズ陸上会長、トライアスロン上田、細田選手後援会会長など会長、顧問など二十九。歴任は

千葉西法人会会長、スペンシャルオリンピックス日本・千葉会長など十九。

賞罰の項に「罰」はないが

厚生労働大臣表彰、千葉元気印企業大賞特別賞受賞などさまざまな分野の表彰が三十七。

記録は

「東京マラソン2010」年代別男子75〜79歳1位のほか多数。日本棋院囲碁7段、将棋3段、柔道2段も。

講演会の経歴も

商工会議所、大学、高等学校、専門学校、警察署などこれまでに五十回以上。

ンピックの聖火ランナーになれるのはありませんか。

林 長野オリンピックのとき私は聖火ランナーを務めました。今はトライアスロンの選手育成に力を入れています。また聖火ランナーもいいですね。

新井田 6年後ですか。いい目標ができましたね。私もがんばります。

対談を終えて

さらこBの辞書に「走る」は、ない。運動会は大嫌いだっだし、今も横断歩道の青信号が点滅しはじめたら渡らない。待つていればまた青になるもの。

だから、80歳を前に毎朝走り、42.195キロを100回以上も走ってきただお二人はスーパーマンか異星人としか思えず、ただ尊敬の念をもってぼうぜんとして聞けばいい。

それでお二人が最後に「これからお互いがんばりましょう」と固い握手を交わした最高の瞬間を撮り損ねました。残念。